

以前の話である。普段、元気な連れ合いが珍しく、治療して欲しいと言う。自分から時間を作って頼むのは余程の事である。聞くと、数日前より左肩甲骨内側下部に違和感があり、仰向けに寝ると左手が痺れて来ていた。それが悪化し、今は左肩甲骨内側下部が痛み、寝なくても左手・左肘が痺れ落ち着かない。

局所治療でよいと思ったが、久しぶりなので、からだ全体的な様子も診ることにした。仰向けに寝てもらい、胸復を手かざして診た後に、鍼かざして様子を診つつ、滞りを減らした。すると胸復を頭から足へと縦に流れる経脈で中央よりやや左手側の経脈が強く滞っているのが分った。下腿のツボに鍼して、この経脈を響かす。

次に座ってもらい、首・肩を診る。左肩後部中央付近に強く反応したツボがあり、そこを首から足へと縦に流れる経脈が筋張っている。そのツボと経脈、そして周辺でやや筋張っている経脈に鍼して、うつ伏せになってもらった。

肩の反応したツボから流れる経脈は背中でも筋張っていて、特に左肩甲骨内側下部のツボで、肩のツボより更に強く反応していた。ここが、本人が痛みを感じている部分である。

病態の成り立ちが想像できた。夜の飲酒や深夜のパソコン作業等の不摂生が影響して、からだの中心より左を流れる経脈が滞った。それが改善されずに長引いた為に、背部の対応する経脈の滞りを引き起こした。そこに何かのきっかけがあり、肩甲骨内側下部のツボに強い邪気の凝りを起し痛みを生んだ。更に左肩後部中央付

近のツボにも邪気の凝りを生んだ。この2つのツボ付近にある邪気やそれに伴う凝りが首や胸から肩を通して手先に行っている神経や血管に影響し、手先にシビレを生んだ。

局所的には問題の2つのツボ周辺の状態を良くすれば、手先の症状は治まるはずである。より深いところでは、この2つのツボを通して、足まで流れる経脈の状態、更にはその腹面の経脈の状態を良くする必要がある。そうしなければ、治りは悪く、再発し易い。更に言えば、夜の飲酒習慣や夜更かしでの作業を減らさなければいけないということにもなる。病の原因とい

うのは単純ではなく、この様に連鎖しているものである。

さて、うつ伏せになって貰ってから治療である。左肩甲骨内側付近は邪気と正気が戦い状態エネルギー過剰な状態(実)である。その為にやや熱を帯び

て凝っている。鍼でそのエネルギーを取り除き、凝りを減らす。そして足首に鍼をして、頭から足へと(気)の流れを作ると、凝りは更に緩まる。それでもツボの反応は残っているがそれは仕方がない。後はとりあえず、からだ自身に任せておく。良くなっていかないようなら、再び治療するということになる。やり過ぎて問題が起きる場合もある。

治療後、左肩甲骨内側の痛みはなくなり、左手のシビレもかなり楽になったと言う。その後、一時、シビレが増したが、収まり、2週間ぐらいいは軽いシビレがあった様だが、再び治療する機会が持てないまま、完全に治まってしまった。

(2014年9月白露)

